

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第79号
令和6年7月1日

平素より、皆様には福島県青少年育成県民会議の事業につきまして、温かい御支援や御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、青少年を取り巻く環境は、さらに厳しく様々な課題を抱えております。青少年が心身ともに健康で社会に参画できるよう、家庭・学校・地域において、大人が青少年の生活や考え方に理解を深め、自立を支える取組が大切であると考えます。

当県民会議は、各市町村民会議、関係機関・団体、企業、NPOの皆様との緊密な連携のもとに、青少年健全育成のために諸活動を展開してまいりますので、これまで以上に皆様の御支援、御協力をお願いいたします。



小学校中学年の部 絵画部門 最優秀賞
「朝にキュウリのパラダイス」
浪江町立なみえ創成小学校
3年 佐々木 柊さん

組織

令和6年度 福島県青少年育成県民会議について

【役員】

- ・ 会長 : 内堀 雅雄[福島県知事]
- ・ 副会長 : 富田 孝志[(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構理事長]
: 大場 盛子[(一財)福島県婦人団体連合会会長]
- ・ 理事 : 11名[高荒 由幾 常勤理事は福島県青少年会館館長と兼務]
- ・ 監事 : 2名

【会議員】

- ・ 関係行政機関、学識経験者、青少年育成団体、青少年団体、報道機関 本年度137
団体・個人)

重点推進事項

- 1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進
- 2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進
- 3 青少年関係機関・団体との連携の強化
- 4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

主な事業の概要

青少年育成セミナー

《第1回》 令和6年6月29日（土）13:30～15:15

【若者の自立支援・子ども若者支援】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室

演題：「不登校と社会的ひきこもり」～本人目線を再考する～

講師：福島学院大学大学院心理学研究科 教授 佐藤佑貴氏



令和6年度福島県青少年育成
県民会議総会

《第2回》 令和6年9月21日（土）13:30～15:15

【心の健康・身体の健康】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室

演題：「災害後や感染症の流行後のマインドフルネス」（仮題）

講師：福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 准教授 瀬藤乃理子氏

「大人への応援講座」開設支援事業

市町村や教育機関、青少年育成関係団体、企業等による「大人への応援講座」の開設に向けて講師を派遣する事業に取り組んでいます。（随時受付）

「家庭の日」作品募集

- ◇募集対象 県内在住もしくは県外に避難している小・中・高生
- ◇募集期間 令和6年6月16日（日）「家庭の日」～令和6年9月4日（水）必着
- ◇表彰 各部門で対象別に審査を行い、優秀な作品については次のとおり表彰等を行います。
*最優秀賞、優秀賞、優良賞受賞者には賞状及び賞品を贈呈します。
- ◇発表 令和6年11月上旬に各報道機関に作品・氏名を発表するほか、絵画、ポスターの入賞作品は、「福島県青少年会館」（福島市黒岩）のロビーに展示します。
- ◇賞の授与 最優秀者には、令和6年11月22日（金）開催予定の「福島県青少年健全育成推進大会」の席上で賞を授与します。また、作文部門の最優秀賞受賞者には、併せて受賞作品の朗読をお願いすることとします。

「夏の思い出」ものづくり体験事業

- ◇ 対象 小学4年生から中学3年生まで
- ◇ 開催日時 令和6年7月20日(土) 13:30~15:30
- ◇ 内容 「陶芸教室」
- ◇ 定員 20名
- ◇ 参加費 500円(教材費)



「陶芸教室」

第46回少年の主張福島県大会

- ◇ 開催日時 令和6年9月26日(木) 12:30~16:00
- ◇ 開催場所 川俣町中央公民館
住所 〒960-1463 福島県伊達郡川俣町字樋ノ口11番地
電話 (024) 565-2434
- ◇ 対象 中学生
- ◇ 募集期間 令和6年6月3日(月)~8月27日(火)(必着)
- ◇ 表彰 最優秀賞1人、優秀賞5人及び優良賞10人に選ばれた方に、賞状及び賞品を授与します。
- ◇ 全国大会への出場
最優秀賞に選ばれた方は、北海道・東北ブロックの選考を通過すれば、令和6年11月24日(日)の「第46回少年の主張全国大会」に出場します。(東京)

第47回福島県青少年健全育成推進大会

- ◇ 開催日 令和6年11月22日(金)
- ◇ 場所 パルセいいざか
- ◇ 参加者 一般県民、県民会議会議員、青少年団体代表等
- ◇ 内容 表彰、朗読・発表、大会宣言の採択等



【令和5年度 福島県青少年健全育成推進大会】

連絡・問い合わせ先】 福島県青少年育成県民会議(福島県青少年会館内)
住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5
TEL 024-546-0002
FAX 024-546-8312
Mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com
HP アドレス <https://www.fukushima-youth.com/conference/>

元旦に発生した能登地震は、改めて地震大国の現実を突きつけました。サッカー日本代表の森保監督のインタビューから緊急地震速報を伝える画面へと切り替えられた放送を見ながら、13年前の3月に起きたあの地震を思い出していました。

当時は福島県相双地方振興局に勤務していました。一階ですら机が動き書類が散乱する激しい揺れの中、発生すると言われて久しかった「宮城県沖地震」がとうとう発生したのだと思いました。

大津波警報が発令され、津波の到来を知り、さらに夕刻になって伝えられる原子力発電所の状況、住民の広域避難、水素爆発など、想像したことのない事態に振り回される日々が続きました。いつの間にか「除染」という言葉が日常的に使われるようになり、「^{ベクレル}Bq」や「^{シーベルト}Sv」といったこれまで使ったことのない単位になじんでしまいました。

福島県はこれからどうなっていくのか、もう元のように戻れない、そういう不安が広がる中で、希望をもたらしてくれたのは若者でした。

あの頃、福島に寄せられたのは支援だけではありませんでした。心ない言葉もあり、若者たちは様々な葛藤と戦っていました。そんな中、震災からわずか5ヶ月後の8月に開催されたのが全国高校総合文化祭、「ふくしま総文」でした。

開催県の発表として上演された「ふくしまからのメッセージ」で全国に向けて語りかけられた、「福島に生まれて 福島で育って 福島で働いて……」という夢が心を打ちました。

大人が迷っている場合ではない、若者はもう前を向いているのだと叱責される思いでした。

さて、能登半島地震から半年以上が経過し、なかなか復興への道筋が見えないことへのいらだちや人口減少への不安が報じられています。それでも、4月には、能登の高校を選び、地元に残る決断をした若者について報道されていました。ふるさとを想う若者がここにもいました。

未来へ向かう子どもたちが将来を描けるように場を整えること、それが大人の仕事です。東日本大震災当時の若者が、県内外の支援を受けながら成長し、福島のために、と活躍しているように、能登の若者も、それぞれの夢を実現できることを願ってやみません。